

河本 勉  
藤 文 夫  
蓮岡 靖之  
福島 恭子  
木口 京子  
千田 博通

<けいはんなイノベーションセンター (KICK) の取組みについて>

日 時： 平成29年2月13日 (月) 13時～15時

場 所： けいはんなオープンイノベーションセンター  
京都府木津川市木津川台九丁目

説明者： 京都府商工労働観光部 特区・イノベーション課  
課長 池村 隆兆 様  
公益財団法人 京都産業21 けいはんな支所  
所長 林 靖 様

コーディネーター 竹島 様

KICK は、平成22年に閉館した「私のしごと館」を国際的なオープンイノベーションの拠点として再生させるため、国から京都府が譲り受けた施設。

閉館後、国は2度に渡り、一般競争入札で売却を試みたが買い手無し。京都府が無償譲渡を申し出て、国有財産法の制限があったため、総合特別区域法の改正により特例措置で平成26年に無償で譲り受けた。

京都府では、この KICK を関西イノベーション国際戦略総合特区や国家戦略特区の中核として機能させ、健康・医療・エネルギー・ICT、農業・食糧、文化・教育などの分野で日本の成長を支えるオープンイノベーションの研究開発拠点を目指して取組んでいる。平成27年4月から公益財団法人京都産業21が、京都府からこの施設を借り受け、KICK に先端的な研究開発が集積し、新たなイノベーションを創出する拠点となることを目指して、管理運営を行っている。

基本コンセプトは、「関西・けいはんなのポテンシャルを活かし、大学棟の研究開発のシーズと産業界のニーズを融合し、産学連携、学学連携、産産連携を促進することにより、商品化・実用化等を加速すること。また、ICT を基盤として、エネルギー、健康医療、食糧、インフラ、教育、文化といった各領域のイノベーションを推進すること」である。

基本コンセプトのもとで4つの研究開発テーマを設けており、スマートライ

フ、スマートエネルギー&ICT、スマートアグリ、スマートカルチャー&エデュケーション。

管理運営は、公益財団法人「京都産業21」（本部：下京区）けいはんな支所が行っている。プロポーザル方式により京都作業21へ。

職員4名（うち派遣1名）、非常勤のコーディネーター1名。

24時間体制で管理会社が入っている。

発生費用は、ハード改修分と管理運営費で、年間1億円。

#### <施設の概要>

敷地面積／83581.12 m<sup>2</sup>、建築面積／21140.04 m<sup>2</sup>、延床面積／35827.37 m<sup>2</sup>（1階：15624.07 m<sup>2</sup>、2階：16009.11 m<sup>2</sup>、3階：4194.19 m<sup>2</sup>）、構造／鉄筋コンクリート・鉄骨骨造ステンレス鋼板葺陸屋 地上3階建て）

1階には展示スペースと研究スペース、2階に展示スペース、研究スペース、シアター、ホールがあり、3階には研究スペースと共用会議室がある。

入居に係る月額利用料金は1500円／m<sup>2</sup>。

各居室の水道光熱費、通信費は入居者負担。大企業以外の入居者には別途補助金制度あり。

現在の入居企業は22社。入居可能スペースの約7割が埋まっており、3割は予約、相談を受けているため、あまり空き部屋はない状態。

入居企業は、ベンチャー企業が多く、KICKが展開する4つの研究開発テーマの中でも、エネルギーやICT、ライフサイエンスの分野が多い。在居期限は約10年程度を考えている。来年度は3年目に入るので、各企業の進捗状況を確認する予定。

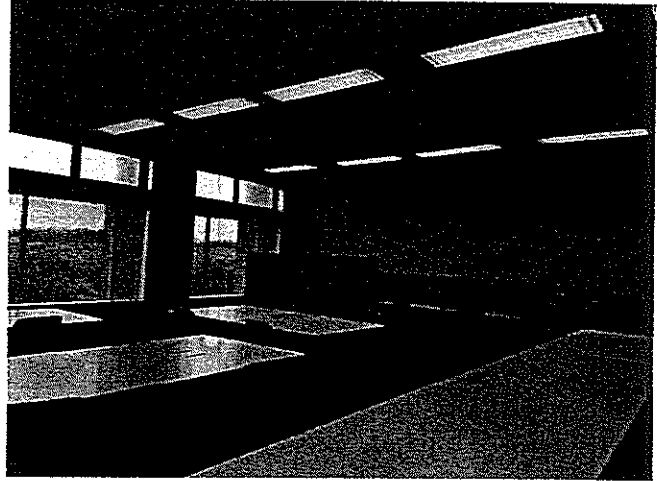
家賃収入は、22社で、約6000万円／月

加えて、京都府からの補助金として5000万円。約1億円強。

年に一度のスマートシティーエキスポの開催、各種セミナーや、ベンチャー企業の資金調達支援として事業計画発表会などを開催している。



○ ↑ レンタルルームの様子



↑ 入会金 10,000 円、月額会費 7,500 円で利用できるシェアードオフィスの様子



← シアタールーム

最近の使用はほぼないとのこと。

近隣のけいはんなプラザに類似の施設があり  
収容人数も多いとのこと。

→ 1階展示スペースの様子。  
建築面積の多くを占める展示スペースの  
活用が課題。



## <所感と岡山県政へのアプローチ>

けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)の巨大さに圧倒された。かつて、「私のしごと館」という厚生労働省の施設としてつくられ、採算性を度外視した運営を続けたことにより閉館となった施設は、どれほど目的が素晴らしいものであっても、果たして“公”がすべきことだったのか。

民間の子ども向けの職業体験型テーマパーク「キッズニア」が、世界各地で展開され、人気を博し、今後も世界中でオープンが予定されていることと比較すれば、“公”は何をし、何を民間に任せるのか、省庁間競争（縦割り）による無駄は今でもあるのではないかなど、公の役割と、運営の在り方について他山の石として考えさせられることは多かった。

けいはんなオープンイノベーションセンターがある関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）は、京都、大阪、奈良の3府県にまたがる地域であり、アジアを代表する文化・学術・研究の中核拠点として世界的な学術研究機関や国際的な交流拠点の集積が進んでいる。また、京都にはものづくり企業や大学が多く、産学公連携の国家プロジェクトとして創造的な学術研究や、新産業の創出、新たな文化の発信などを行う新都市を形成し、世界の文化学術研究機関との連携を行っている。

岡山県にも、けいはんなオープンイノベーションセンターの運営母体である京都産業21と同様の役割を果たす「岡山県産業振興財団」があり、地域企業の経営支援、資金調達や研究開発、人材育成のお手伝いを行っている。

ベンチャー企業へのサポートは、学ぶべきところがあるかと感じた。

また、産学連携、学学連携、産産連携を促進することによって新たな可能性が広がり、イノベーションに繋がるというコンセプトに沿った、アドバイスや支援は、岡山県でも強化すべきだと考える。

以上